

# (報告) ユーザー理解活動の取組

2017年12月22日

公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

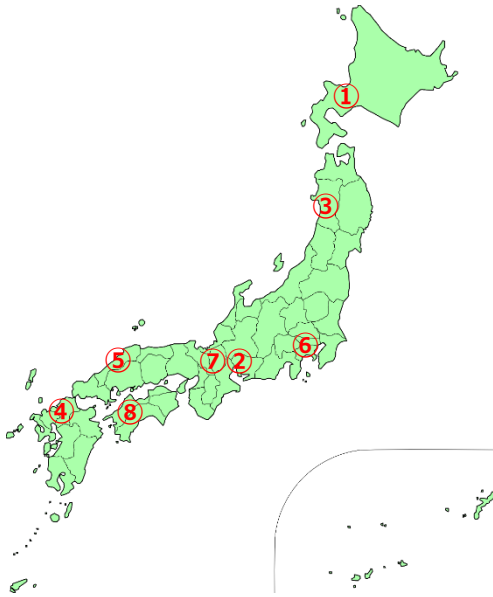
# 1. 環境イベントでの取組 その1

自動車リサイクルの取組についての露出を高め、ユーザーの認知向上を目指して、全国各地域で開催される環境・自動車関連イベントに出展し、特に来場者が多い小学生とその保護者に対してPR活動を行っている。

## (1) 環境・自動車関連イベント出展計画

環境・自動車関連イベントへの出展計画は下表のとおりである。

<表 出展計画>

	開催地域	名称	開催予定日	規模	MAP
①	北海道 札幌市	環境広場さっぽろ 2017	8月4日 ～6日	約3万人	<p>←9月諮問委員会で報告済</p> 
②	愛知県 名古屋市	環境デーなごや2017 中央行事	9月16日	約15万人	
③	秋田県 秋田市	第17回あきたエコ&リ サイクルフェスティバル	10月7日 ～8日	約3万人	
④	福岡県 北九州市	エコテクノ2017	10月11日 ～13日	約3万人	
⑤	島根県 松江市	2017松江市環境フェ スティバル	11月5日	約1万人	
⑥	東京都 江東区	エコプロ2017	12月7日 ～9日	約17万人	
⑦	京都府 京都市	京都環境フェスティバル 2017	12月9日 ～10日	約3万人	
⑧	愛媛県 松山市	環境モデル都市まつや ま環境フェア2018	2月17日 ～18日	約2万人	

## (2) 取組状況

- 開催日：9/16
- 場所：愛知県名古屋市
- 名称：環境デーなごや
- 来場者数：約9万人
- 天気：雨

- ②
- ・台風の影響により開演前から大雨。
  - ・主にリサイクル実効率99%、リサイクル料金の用途などについて、広報映像やパネルなど既存の広報ツールを活用してPR。
  - ・自動車リサイクル博士（着ぐるみ）は、雨によりフル活動はできなかったものの、来場者や出展他団体のキャラクター等と交流。



個別に説明



来場者との交流

# 1. 環境イベントでの取組 その2

- 開催日：10/7～8
- 場所：秋田県秋田市
- 名称：あきたエコ&リサイクルフェスティバル
- 来場者数：約2.4万人
- 天気：雨のち晴れ

- ③ ・雨模様であったが、会場が駅前アーケードのため、多くの方が来場。  
 ・主にリサイクル実効率99%、リサイクル料金の用途などについて、広報映像やパネルなど既存の広報ツールを活用してPR。  
 ・来場者からの注目を集めるよう、自動車リサイクル博士（着ぐるみ）を活用し、来場者や出展他団体のゆるキャラ等と交流を図った。



主催者と共に自動車リサイクルPR活動

来場者との交流

- 開催日：10/11～13
- 場所：福岡県北九州市
- 名称：エコテクノ2017
- 来場者数：約3万人
- 天気：晴れ

- ④ ・多くのビジネスマンや大学生が来場。  
 ・環境イベント主催者と連携しながらポイントトリーの中継点の役割を担うことで、来場促進を図った。  
 ・地域記者クラブ、メディアへの事前の根回しが功を奏し、TVQ九州放送の取材を受け、報道番組で映像が使われることに成功。



「TVQ九州放送」の取材



写真提供・TVQ九州放送  
 “ふくおかサテライト”で露出

- 開催日：11/5
- 場所：島根県松江市
- 名称：松江市環境フェスティバル
- 来場者数：約0.7万人
- 天気：晴れ

- ⑤ ・多くの方が来場され、大盛況だった。  
 ・ポイントトリーの中継点の役割を担うことで、来場促進を図った。  
 ・NHK松江放送局の取材を受け、ニュースに取上げられた。  
 ・自動車リサイクル博士（着ぐるみ）は、来場者や出展他団体のキャラクター等と交流。



自動車リサイクルPR活動



出典・NHK松江放送局

## 2. 新聞広告を利用した取組 その1

3R推進月間(10月)、東京モーターショー(10~11月)、環境イベント開催など、環境や自動車に関連する情報が増えるタイミングで、自動車リサイクルの取組についての露出を高め、幅広くユーザーの認知向上を目指して、10月から翌年1月にかけて全国的に新聞広告(3回連載)を展開している。

### (1) メディア媒体の選定

幅広い対象に信頼性が高い情報発信ができる新聞広告を選択した。

<表 メディアの特徴>

媒体	特徴(一例)
新聞広告	<ul style="list-style-type: none"><li>・社会的な信頼度の高いメディアであり、信頼性の高い形で情報の訴求が可能。</li><li>・「全国」「地域」を対象にした幅広いターゲットへの訴求が可能。</li><li>・「文字情報」「イラスト」などを使用し、読ませる表現が可能。</li></ul>
TVCM	<ul style="list-style-type: none"><li>・「全国」「地域」を対象にした幅広いターゲットへの訴求が可能。</li><li>・映像を用いることで、効果的なイメージの訴求が可能。</li><li>・新商品告知やキャンペーン告知には向いているが、伝達可能な情報量は限定。</li></ul>
雑誌広告	<ul style="list-style-type: none"><li>・ターゲットを絞った情報発信が可能。</li><li>・「文字情報」「写真」「イラスト」を使用し、読ませる表現が可能。</li><li>・掲載までに比較的長い時間を要する。</li></ul>
ラジオCM	<ul style="list-style-type: none"><li>・パーソナリティを通じて、親和性の高い形で情報の訴求が可能。</li><li>・地域密着型の展開が可能な反面、視聴者層が限定。</li><li>・低コスト・短期間でのオンエアが可能。</li></ul>
インターネット広告	<ul style="list-style-type: none"><li>・訴求対象の細かいセグメンテーションが可能。</li><li>・費用対効果の把握が可能。</li><li>・世の中での話題を醸成し、信頼性やイメージを訴求するには限界。</li></ul>

### (2) 新聞媒体の選定の考え方

幅広い対象への効率的な伝達手法を検討した結果、全国紙と地方紙を組み合わせることで展開することとした。

#### 大都市中心

大都市圏の自動車ユーザー  
にアプローチ

全国紙(朝刊) 発行部数: 約900万部 (読売新聞)  
全国紙(朝刊) 発行部数: 約270万部 (日本経済新聞)

#### 地方中心

地方の自動車ユーザー  
にアプローチ

地方紙(朝刊) 発行部数: 約1600万部  
(全地方紙で展開した場合)



### 3. 小学生の学校教育と連動した取組 その1

#### (1) 背景

小学5年・6年生の社会科で学ぶ自動車リサイクルは、日本の基幹産業の“自動車”として、動脈産業だけでなく、静脈産業も併せて紹介されている。

情報の受け手の小学生自らが、循環型社会に向けた自動車リサイクルの取組を正しく知り、興味を持ってもらい、日本の産業や環境保全などの現状や将来について考えるための基礎情報の提供が必要である。

#### (2) 目的・狙い

“子ども記者”が取材者となり、小学生の目線で自動車リサイクルの取組をわかりやすく伝えることにより、次の効果を期待する。

- ・小学生とその保護者の認知向上と理解の促進。
- ・小学校の先生の認知向上と理解の促進。
- ・地域住民、地域自治体、地域メディアなどの読者への情報拡散。
- ・関係する事業者間でのベストプラクティスの共有。

#### (3) 実施概要

①朝日小学生新聞「子ども記者」による現場取材を実施：

自動車リサイクルのいまを“子ども”の視点で取材し、小学生新聞に掲載。

②全国小学校に向けた壁新聞を配付・掲示を実施：

授業での活用を目的に、連載記事をまとめた壁新聞を配付・掲示。

③自動車リサイクルについての作品コンクールを実施：

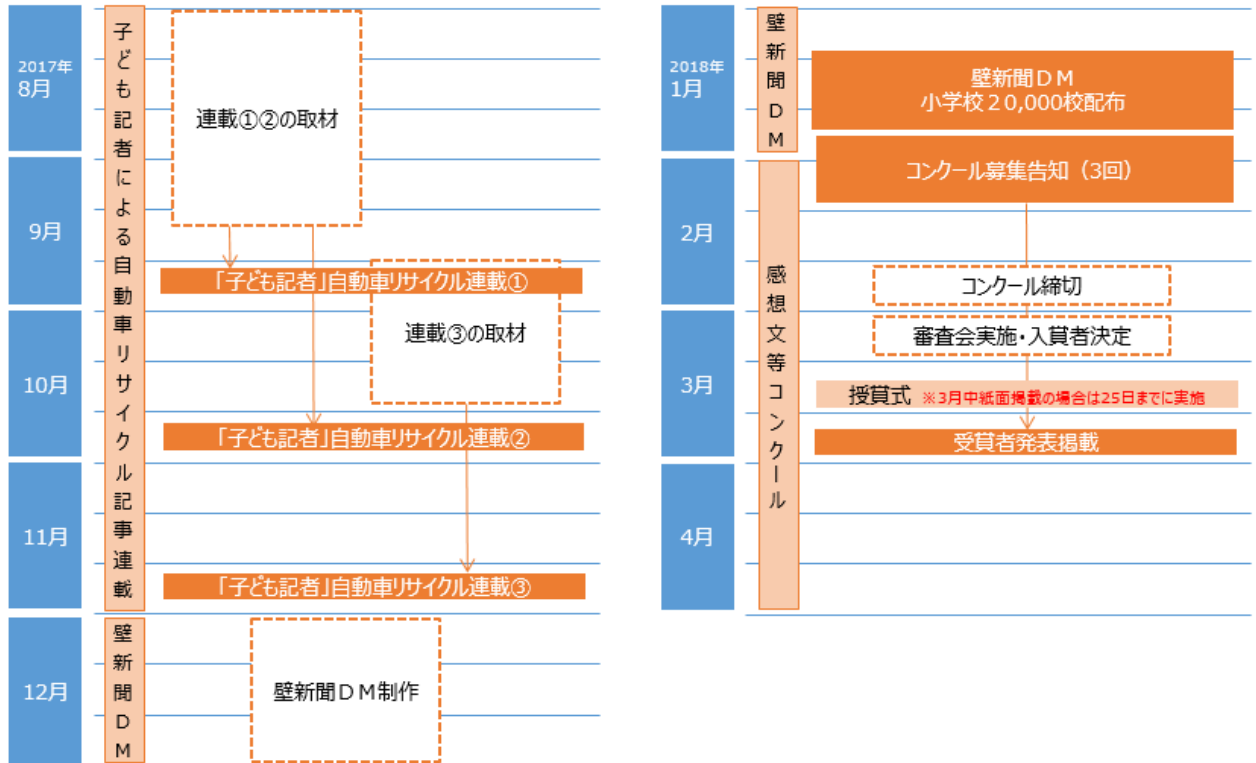
新聞連載、校内での壁新聞掲載をもとに、作品コンクールを開催。



<図 取組のステップと日程感>

# 3. 小学生の学校教育と連動した取組 その2

## (4) スケジュール



<9月から11月にかけて掲示した小学生向けの連載記事>

## 4. 海外視察団への対応

9月20日の台湾視察団、11月2日のマレーシア視察団によるJARC訪問を受け、自動車リサイクルの関係者と連携しながら、日本の自動車リサイクルの取組について情報提供を行い、交流を図った。

### (1) 台湾視察団への対応

- ・日時：9月20日（水）10:00~12:00
- ・来訪者：環保署回收基管會  
台湾産業服務基金會  
台灣豐田通商股份有限公司
- ・対応者：JAMA、ASRチーム、JARP  
METI、JARC
- ・交流内容：日本の自動車リサイクルの紹介  
台湾の自動車リサイクルの紹介



#### 【ヒアリング結果】

- ・指定回収物品は、ASR、ワイヤ、モーターの3物品とされ、法定されている。リサイクル率の目標は75%。
- ・自動車メーカーが自動車リサイクルの運営費を負担しているが、新車販売時にリサイクル費用を内部化しているため実質的にはユーザーが負担している。国がリサイクルの責任を負っている。
- ・国が事業者を支払う補助金額は、車種問わず台あたり2,500円。補助金額は自動車とオートバイで区分。

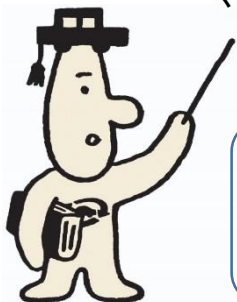
### (2) マレーシア視察団への対応

- ・日時：11月2日（木）14:30~15:30
- ・来訪者：マレーシア投資開発庁
- ・対応者：JAMA、ASRチーム、JARP  
METI、JARC
- ・交流内容：日本の自動車リサイクルの紹介  
マレーシアの自動車産業の紹介



#### 【ヒアリング結果】

- ・回収したパーツは自動車のスペアパーツとして取り扱っている。
- ・破碎後に回収した鉄などは鉄鋼産業で再利用がなされているが、それ以外のものは自り法施行前の日本のような不法投棄や不適切保管の状態が進み、自然環境に影響が出ている。











<http://www.jarc.or.jp/>